

メリハリのある3年間で未来の自分を創る

亜細亜大学国際関係学部教授
女性差別撤廃委員会委員

秋月 弘子 氏 (高校30期)



国際基督教大学大学院行政学研究科博士課程修了(学術博士)。
国連開発計画 (UNDP) プログラム・オフィサー、北九州市立大学講師・助教授、コロンビア大学大学院国際公共政策研究科客員研究員などを経て、2002年より現職。

主な著書:『国連法序説』(単著、国際書院、1999年) 『国際社会における法と裁判』(共著、国際書院、2014年)
『人類の道しるべとしての国際法』(共著、国際書院、2011年) 『国際法入門』(共著、有斐閣、2005年)など

■立川高校時代

人生の中で一番楽しかった3年間、それが私の立高時代です。7時ころから朝練を始め、放課後も暗くなるまで多摩川の河原で声を張り上げている応援団員でした。何事にも全力で取り組み、燃え尽きた後は半年間勉強に集中する・・・そんなメリハリのついた立高時代が今の私の基礎となっています。

■卒業後



国連欧州本部

外交官になろうと思って入った大学(ICU)で、その後の人生を決めることになった恩師と学問(国際法)に出会うことができました。大学2年生の時に国連について勉強し、「世界平和に貢献したい!」と思い、国連職員を目指しました。大学院で修士号を取得し、英語での実務経験を積むため外資系銀行で3年間働き、27歳で国連開発計画(UNDP)のプログラム・オフィサーとなり、インドネシアで開発援助に従事しました。3年ほどで体を壊して帰国し、大学院の博士課程で再び国際法を勉強していたところ、大学教員の道が開けました。いつかまた国連に戻りたいと思いつつも、いつのまにか30年も大学で教えています。

2018年、国連の女性差別撤廃委員会委員に選出され、2019年から世界中の女性の権利と尊厳を守る仕事をしています。世界には、男性の保護者の許しがなければ、一人で出歩くこともできない人もいます。レイプの被害者が、家の恥だと言われ、レイプ犯との結婚を強要されたり、父親や兄に殺されたり(名誉殺人)する人もいます。人権の専門家として、このような女性たちの命、権利、尊厳を守る仕事を通して、少しは「世界平和に貢献」できているのではないかと思います。

大学時代の恩師は、「自分の能力も今置かれている環境も、すべて神が与えてくれた『ギフト』だから、自分のためだけではなく、他の人のためにも使う」ことを教えてくださいました。女性差別撤廃委員会委員としての仕事も、大学教員としての仕事も、家庭の一員としての仕事も、他の人のためにも、一つ一つ心を込めて行っていこうと思っています。



女子差別撤廃条約会議(CEDAW)

■立高生へのメッセージ

人生の中で一番楽しい高校時代を謳歌してください。若いうちは誰でも未来に不安を感じるものです。目の前にいくつものドアが見えますか?自分でドアをこじ開けるもよし、開いたドアの中に飛び込むのもよし。恐れずにドアの中に飛び込んでみてください。立高で培ったメリハリのある生活は、必ず未来の自分に力と自信を与えてくれるはずですから。



女性差別撤廃委員会委員